

12 レタス大規模生産における品質向上対策への取り組み

■ J A香川県松山支店レタス部会 ■

(中讃農業改良普及センター ○堤 友梨、伊藤 博紀)

●対象の概要

坂出市のJ A松山支店レタス部会（生産者14名（うち法人7名）、栽培面積47.5ha）は、借地による大規模経営化を積極的に進めている部会であり、法人へ移行した生産者も多い。部会員は外国人研修生の受け入れ・日本人の雇用・機械化の推進・J Aによる出荷調整作業支援の活用などにより労働力を確保し、金時ニンジン、カンショ、ダイコンなどを組み合わせた大規模複合経営を行っている。

また法人には次世代を担う後継者が存在していることに加え、法人から独立就農した若手生産者も栽培に取り組み始めており、部会は非常に活気づいている。

●課題を取り上げた理由

当地区はレタス栽培の大規模化が急速に進み、産地化されてきた。こうした中、レタスビッグベイン病の発生を主因とする品質低下が近年問題となっている。

また、これまで減農薬・減化学肥料栽培に取り組んできたことから、難防除病害のレタスビッグベイン病の防除にも農薬は使用せず、抵抗性・耐病性の品種で発病を抑制してきた。しかし、年々同病害の発生は多発している。

そこで、レタスビッグベイン病の有効な対策の検討と、適正管理の徹底による商品化率の向上が急務であると考え、支援活動に取り組んだ。

●普及活動の経過

1 レタスビッグベイン病対策展示ほの設置

これまでの販売方針を変更したことにより、レタスビッグベイン病に対する農薬防除（定植時薬剤かん注）が可能となった。

そのため、平成25年度、抵抗性・耐病性品種の栽培試験と同時に定植時薬剤かん注展示ほを設置した。生産者（親世代）には、展示ほを通して薬剤かん注の効果を確認、認識してもらった。

平成26年度も同様に耐病性品種の試験栽培と

巡回などで後継者世代にも効果を確認してもらった。



展示ほにおける試験概要説明

同時に、トンネル温湿度管理不足による腐敗病多発対策として、トンネル内外の温度計測を行い、それに基づく温度管理指導や、トンネル内へ不織布設置での保温対策などの啓発に努めた。

2 栽培講習会などの開催

平成25年度の展示ほにおける試験結果を踏まえ、平成26年7月9日に開催された26年度品種検討会において親世代に薬剤かん注の重要性を強調し、意識づけを図った。

また、後継者世代に対しては、平成26年9月11日開催の栽培講習会において、レタスの基本的な生理、栽培のポイントについて説明するとともに、巡回指導を行い、早期の技術習得に努めた。

●普及活動の成果

1 薬剤かん注による防除効果の確認

平成25年度の定植時薬剤かん注展示ほの結果から、レタスビッグベイン病の発病抑制の効果が確認され、生産者に防除の必要性を認識させた。さらに平成26年度の展示では定植時の薬剤かん注により、レタスビッグベイン病だけで

なく菌核病、灰色かび病の予防効果も確認できた。（表－1）

表－1 レタスビッグベイン病に対する薬剤かん注の効果

区分	総株数	発病なし		発病あり	
		菌核病	菌核病	菌核病	菌核病
薬剤かん注区	60	59	0	1	0
無処理区	59	26	5	33	2

（品種：プラノ 単位：本数）



薬剤かん注の効果

定植時に薬剤かん注を実施した面積は、平成25年度0haから平成26年度33ha（総面積の約7割）へと拡大した。また、次年度では残る約3割の早い作型についても薬剤かん注を実施することが決定しており、薬剤処理技術を普及することができた。

また、2月の生産量は昨年比113%と増加した。これは、昨年までレタスビッグベイン病の罹病により収穫できなかつた株が、出荷可能な程度まで結球するようになったことによるもので、薬剤処理が出荷量を増加させたと考えられる。

2 トンネル内温度変化の確認

温度計を設置したことで、トンネル内の温度は、夜間の放射冷却で外気温よりも低下し早朝に霜が降りやすくなること、トンネル内の温度の日較差は激しく最大で40℃程度になることを確認した。（図－1）

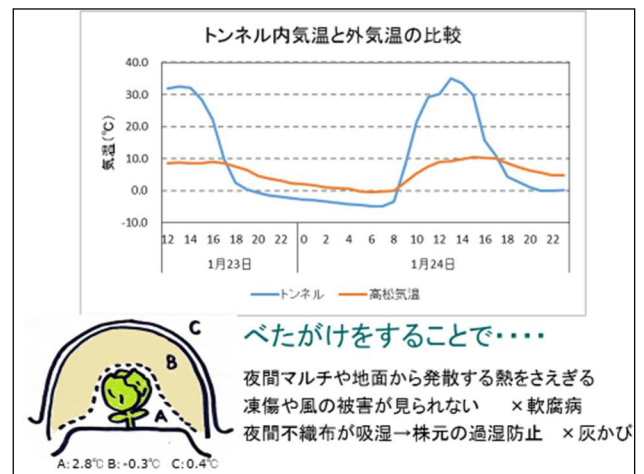
蒸し込み状態での生育は作物を軟弱にし、病気の原因となるため、換気的重要性とべたがけの利用について講習会やほ場巡回時に説明を行ったが、平成26年度は不織布べたがけの利用はされなかった。

3 生産者の意識向上

病害虫防除技術は、親世代に対して、平成25

年度の展示ほにおける薬剤かん注の効果を直接確認してもらったことに加え、平成26年度品種検討会において、展示データを示すとともに再度重要性を強調した。この結果、産地全体の防除および品質改善対策への意識向上へとつながった。また、親世代に納得してもらえたことにより後継者世代への意識づけもスムーズに行われた。

栽培管理技術は、栽培講習会やほ場巡回時に、レタスの基本的栽培技術について説明するとともに、トンネル換気的重要性と防除暦を参考とした防除のタイミングについても指導を行った結果、防除、換気的重要性が認識された。



図－1 温度変化とべたがけの重要性を説明

●今後の普及活動の課題

生産者の多くは大規模経営による労力不足のため、防除回数は少なく、トンネルの換気頻度も低いが、品質向上にはこうした管理の適正化が重要である。

現在、栽培面積は47.5haであるが、本地区では今後レタスの出荷支援施設の整備が予定されており、レタス栽培面積、生産者ともに増加が予想される。新規生産者が増加したときに、今の生産者が栽培技術、品質でも新規生産者をけん引できるよう、今後も病害防除対策と適正な温度管理の徹底を図る必要があり、地域に適した品種の提案とともに、防除のタイミングやトンネルの換気など品質向上への栽培技術について指導を強化したい。